

I 調査結果の概要

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

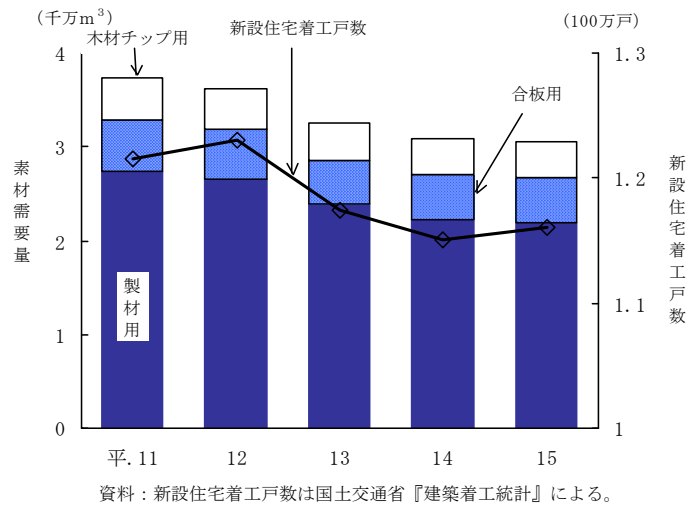
平成15年の素材の需要量は3,051万6千 m^3 で、前年に比べ38万6千 m^3 （1.2%）減少した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は2,185万7千 m^3 で、製材品輸入量の増加等により前年に比べ46万4千 m^3 （2.1%）減少した。また「木材チップ用」は374万6千 m^3 で、原材料の解体材・廃材が増加したこと等により前年に比べ11万1千 m^3 （2.9%）減少した。

一方、「合板用」は491万3千 m^3 で、合板輸入量の減少等により前年に比べ18万9千 m^3 （4.0%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が71.6%、「合板用」が16.1%、「木材チップ用」が12.3%となった。（第1表、図1）

図1 素材の需要量及び新設住宅着工戸数の推移



第1表 需要部門別、供給部門別素材需給

単位 { 需要量・供給量: 千 m^3
比 率: %

需要部門	供給部門	計	国産材			外材						
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーンランド材	その他
実数	計	30 516	15 171	12 605	2 566	15 345	1 817	1 031	6 139	5 354	1 577	458
	製材用	21 857	11 214	10 933	281	10 643	314	47	6 087	2 927	997	318
	合板用	4 913	360	307	53	4 553	1 489	977	20	2 346	579	119
	木材チップ用	3 746	3 597	1 365	2 232	149	14	7	32	81	1	21
対前年比	計	98.8	100.5	101.5	96.0	97.1	84.2	81.3	95.7	106.7	96.1	79.1
	製材用	97.9	100.6	101.1	86.7	95.2	94.3	78.3	95.7	97.2	95.1	74.6
	合板用	104.0	129.0	137.1	96.4	102.4	82.2	81.3	95.2	123.8	100.5	83.8
	木材チップ用	97.1	98.0	99.1	97.3	80.1	93.3	116.7	110.3	71.1	5.9	190.9
構成比	計	100.0	49.7	41.3	8.4	50.3	6.0	3.4	20.1	17.5	5.2	1.5
	製材用	100.0	51.3	50.0	1.3	48.7	1.4	0.2	27.8	13.4	4.6	1.5
	合板用	100.0	7.3	6.2	1.1	92.7	30.3	19.9	0.4	47.8	11.8	2.4
	木材チップ用	100.0	96.0	36.4	59.6	4.0	0.4	0.2	0.9	2.2	0.0	0.6

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数				2) 製材品輸入量		3) 合板輸入量		4) 紙・板紙生産量	
	実数	対前年比	うち、木造住宅	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	
	(千戸)	(%)	(千戸)	(%)	(千 m^3)	(%)	(千 m^3)	(%)	(千 t)	(%)
平. 11	1 215	101.4	566	103.7	9 434	125.1	4 523	122.1	30 631	102.5
12	1 230	101.3	556	98.3	9 951	105.5	4 609	101.9	31 828	103.9
13	1 174	95.4	523	94.1	8 980	90.2	4 559	98.9	30 717	96.5
14	1 151	98.1	504	96.4	8 583	95.6	4 663	102.3	30 686	99.9
15	1 160	100.8	523	103.9	8 849	103.1	4 221	90.5	30 458	99.3

資料：1)は国土交通省『建築着工統計』、2)及び3)は財務省『貿易統計』、4)は経済産業省『紙・パルプ統計』による。

(2) 素材の供給

平成15年の素材の供給量（＝需要量）を国産材、外材別にみると、国産材は1,517万1千 m^3 で、前年に比べ7万9千 m^3 （0.5%）増加した。

また、外材は1,534万5千 m^3 で、前年に比べ46万5千 m^3 （2.9%）減少した。

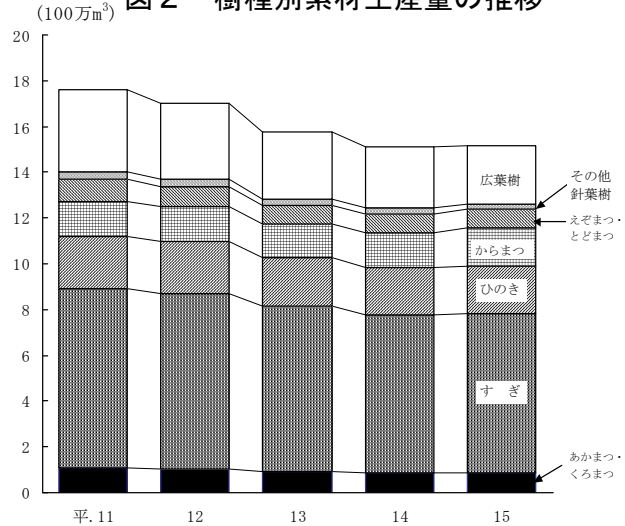
この結果、素材の供給量に占める国産材の割合は49.7%となり、前年に比べ0.9ポイント増加した。（第1表）

ア 国産材の供給

国産材供給量（素材生産量）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,260万5千 m^3 で前年に比べ18万5千 m^3 （1.5%）増加し、広葉樹は256万6千 m^3 で前年に比べ10万6千 m^3 （4.0%）減少した。

また、樹種別にみると、「すぎ」、「からまつ」、「えぞまつ・とどまつ」が前年に比べ増加した。（第2表、図2）

図2 樹種別素材生産量の推移



第2表 需要部門別、供給部門別国産材供給量

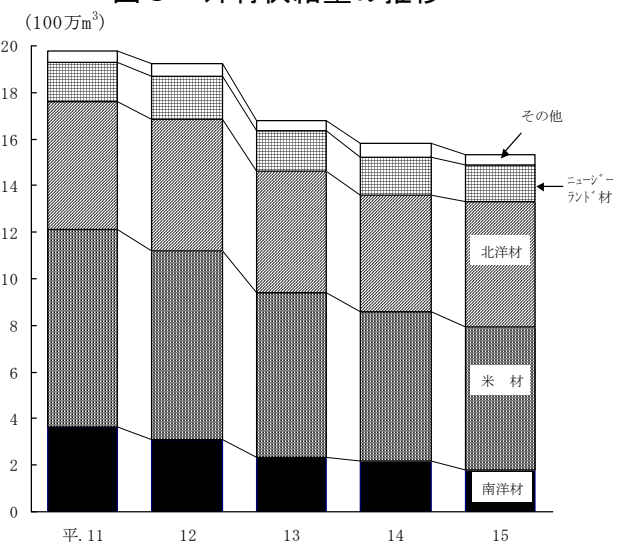
供給部門	計	針葉樹							広葉樹			
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	小計	なら	ぶな	その他
実数												
計	15 171	12 605	864	6 989	2 027	1 677	839	209	2 566	118	32	2 416
製材用	11 214	10 933	389	6 458	1 972	1 226	748	140	281	47	17	217
合板用	360	307	62	130	0	115	-	0	53	3	7	43
木材チップ用	3 597	1 365	413	401	55	336	91	69	2 232	68	8	2 156
対前年比												
計	100.5	101.5	97.2	101.9	97.5	110.0	103.7	81.3	96.0	90.1	68.1	96.9
製材用	100.6	101.1	90.3	100.7	98.2	111.1	106.1	91.5	86.7	83.9	70.8	88.9
合板用	129.0	137.1	476.9	270.8	...	78.8	-	...	96.4	150.0	116.7	91.5
木材チップ用	98.0	99.1	92.8	101.3	77.5	122.2	92.9	74.2	97.3	93.2	47.1	97.9

単位 { 生産量：千 m^3
比率：%

図3 外材供給量の推移

イ 外材の供給

外材供給量を産地材別にみると、「米材」は613万9千 m^3 で前年に比べ27万3千 m^3 （4.3%）減少した。「北洋材」は535万4千 m^3 で、合板産業の針葉樹への原料転換等により前年に比べ33万5千 m^3 （6.7%）増加し、「南洋材」は181万7千 m^3 で、産地国による資源的制約や木材工業の発展等により、前年に比べ34万2千 m^3 （15.8%）減少した。（第1表、図3）



2 木材産業の動向

(1) 製材業

平成15年の製材業の動向をみると、12月31日現在の製材工場数（製材用動力の出力数が7.5kW未満の工場を除く。）は9,920工場で、前年に比べ4.9%減少した。

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は9,920工場で、前年に比べ509工場（4.9%）減少した。

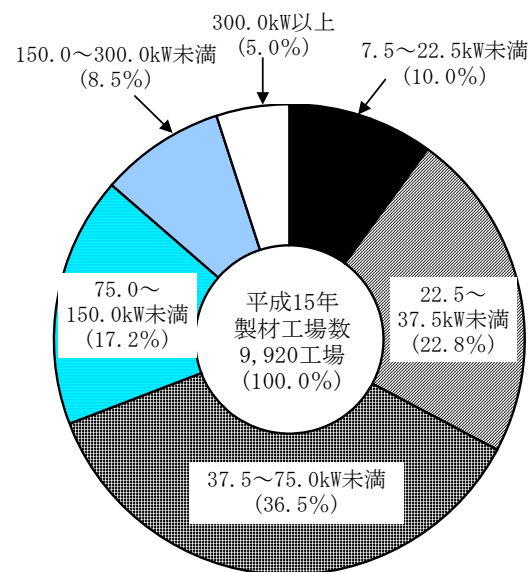
これを製材用動力の出力階層別にみると、7.5kW～22.5kW未満で前年に比べ4.6%増加し、その他の階層では減少した。

また、製材用動力の総出力数は90万8,249kWで、前年に比べ4万2,410kW減少したものの、1工場当たりの出力数は91.6kWで、前年に比べ0.4kW増加した。（第3表、図4）

第3表 製材用動力の出力階層規模別工場数

出力階層	単位 { 工場数:工場 比率:% }			
	平. 15	14	対前年比	1工場当たり 出力数 kW
計	9 920	10 429	95.1	91.6
7.5～22.5kW 未満	992	948	104.6	...
22.5～37.5	2 265	2 468	91.8	...
37.5～75.0	3 617	3 849	94.0	...
75.0～150.0	1 706	1 766	96.6	...
150.0～300.0	844	886	95.3	...
300.0kW以上	496	512	96.9	...

図4 製材用動力の出力階層別
工場数の構成割合



イ 製材工場従業者数

12月31日現在（12月操業）の従業者数は5万8,593人で、前年に比べ3,779人（6.1%）減少した。また、1工場当たりの従業者数は5.9人で、前年に比べ0.1人減少した。

9,920工場のうち、12月に操業した製材工場数は9,875工場で、前年に比べ519工場（5.0%）減少した。（第4表）

第4表 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

年次	工場数								従業者数 (12月31日現在) 人
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上		
実数									
平. 15	9 875	5 871	2 553	1 063	252	99	37	58 593	
14	10 394	5 998	2 832	1 134	280	110	40	62 372	
対前年比									
平. 15	95.0	97.9	90.1	93.7	90.0	90.0	92.5	93.9	
14	94.5	97.3	91.7	88.9	92.1	85.9	105.3	93.1	
構成比									
平. 15	100.0	59.5	25.9	10.8	2.6	1.0	0.4	5.9	
14	100.0	57.7	27.2	10.9	2.7	1.1	0.4	6.0	

注：1) は、1工場当たりの従業者数である。

ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は2,185万7千m³で、前年に比べ46万4千m³ (2.1%) 減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,121万4千m³で前年に比べ0.6%増加し、外材の入荷量は1,064万3千m³で前年に比べ4.8%減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は51.3%で、前年を1.4ポイント上回った。

国産材の入荷量を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,093万3千m³で、前年に比べ

1.1%増加し、広葉樹は28万1千m³で前年に比べ13.3%減少した。

外材の入荷量を産地別にみると、「米材」は608万7千m³、「北洋材」は292万7千m³、「ニュージーランド材」は99万7千m³、「南洋材」は31万4千m³で、それぞれ4.3%、2.8%、4.9%、5.7%減少した。(第1表、図5)

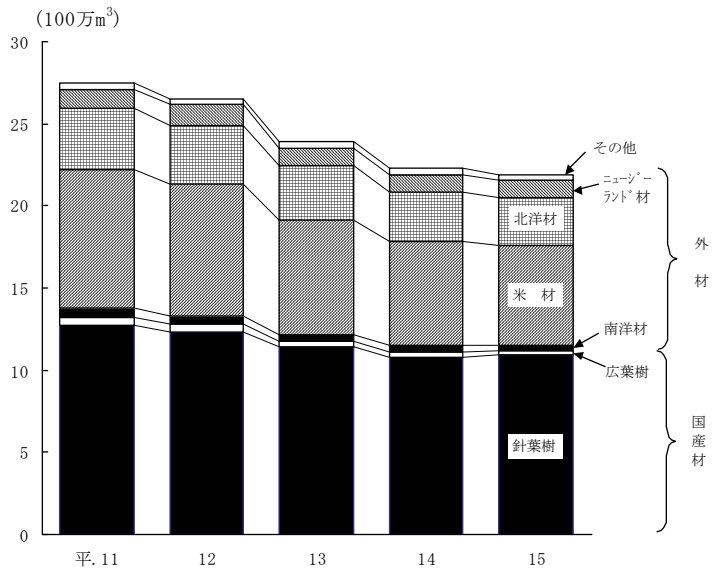
(イ) 素材の入荷があった製材工場は9,850工場、前年に比べ545工場 (5.2%) 減少した。

これを入荷類型別の工場数でみると、「国産材のみ」は4,995工場、「国産材と外材」は3,647工場、「外材のみ」は1,208工場、それぞれ1.7%、8.7%、8.3%減少した。

入荷量でみると、「国産材のみ」の工場は881万3千m³で前年に比べ0.9%増加し、「国産材と外材」の工場は496万7千m³、「外材のみ」の工場は807万7千m³で、前年に比べそれぞれ4.1%、3.9%減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量全体の4割以上を占め、300.0kW以上の入荷量のうち、特に外材のみを扱う工場では、6割近くを占めている。(第5表)

図5 製材用素材の入荷量の推移



第5表 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

単位 { 工場数: 工場
入荷量: 千m³
比率: %

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
実数								
計	9 850	21 857	4 995	8 813	3 647	4 967	1 208	8 077
7.5 ~ 22.5kW未満	988	278	670	178	246	92	72	8
22.5 ~ 37.5	2 245	942	1 275	507	805	357	165	78
37.5 ~ 75.0	3 580	2 858	1 740	1 392	1 468	1 016	372	450
75.0 ~150.0	1 700	3 702	695	1 539	709	1 205	296	958
150.0 ~300.0	841	3 967	384	1 935	291	1 022	166	1 010
300.0kW以上	496	10 110	231	3 262	128	1 275	137	5 573
対前年比								
計	94.8	97.9	98.3	100.9	91.3	95.9	91.7	96.1
7.5 ~ 22.5kW未満	104.7	109.4	109.8	108.5	90.8	133.3	114.3	38.1
22.5 ~ 37.5	91.3	92.2	93.2	95.8	89.1	89.5	87.8	83.0
37.5 ~ 75.0	93.4	90.9	97.6	91.2	89.4	88.3	91.2	96.2
75.0 ~150.0	96.4	96.3	98.7	101.5	95.9	95.1	92.2	90.4
150.0 ~300.0	95.1	96.8	99.5	100.6	93.6	92.8	88.8	94.0
300.0kW以上	97.1	101.5	100.0	105.9	98.5	107.1	91.3	98.0

注：工場数は、平成15年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は2,153万1千³m³で、前年に比べ43万2千³m³（2.0%）減少した。製材用動力の出力階層別にみると、7.5～22.5kW未満と300.0kW以上の階層で増加した。なお、1工場当たりの素材消費量は2,170³m³で、前年に比べ64³m³（3.0%）増加した。（第6表）

第6表 製材用動力の出力階層別製材用素材消費量

出力階層	素材消費量		1工場当たり素材消費量		
	対前年比	構成比	対前年比	対前年比	
計	21 531	98.0	100.0	2 170	103.0
7.5 ～ 22.5kW未満	256	102.4	1.2	258	97.7
22.5 ～ 37.5	905	89.5	4.2	400	97.6
37.5 ～ 75.0	2 817	91.7	13.1	779	97.6
75.0 ～150.0	3 655	96.6	17.0	2 142	100.0
150.0 ～300.0	3 908	96.4	18.2	4 630	101.1
300.0kW 以上	9 990	102.0	46.4	20 141	105.3

単位 { 素材消費量：千³m³
1工場当たり：³m³
比 率：%

オ 製材品生産量及び出荷量

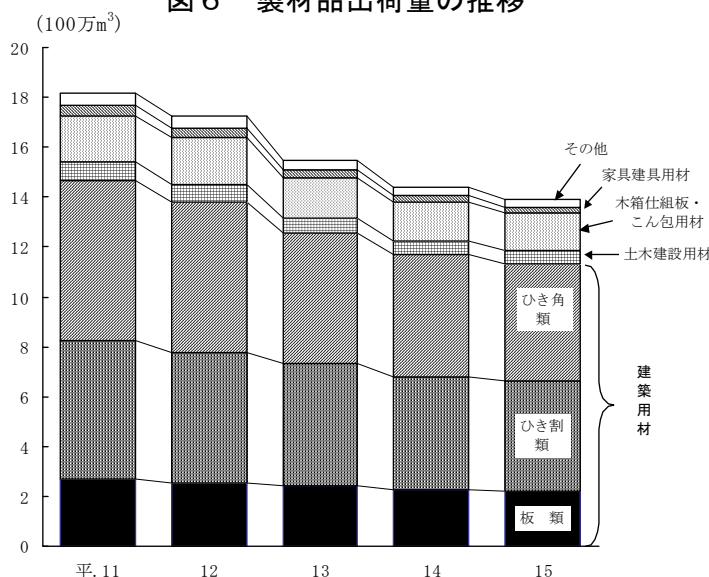
製材品生産量は1,390万3千³m³、出荷量は1,392万9千³m³で、前年に比べそれぞれ1.1%、3.3%減少した。

1工場当たりの製材品生産量は1,401³m³で、前年に比べ3.5%増加した。（第7表）

出荷量を用途別にみると、「建築用材」は1,132万6千³m³、「土木建設用材」は52万8千³m³、「木箱仕組板・こん包用材」は148万9千³m³、「家具・建具用材」は21万3千³m³でそれぞれ3.0%、8.7%、3.1%、16.5%減少した。（図6）

また、人工乾燥材出荷量は193万8千³m³で前年に比べ8.3%増加した。（第7表）

図6 製材品出荷量の推移



第7表 製材品生産量及び出荷量

年次	製材品生産量		1工場当たり製材品生産量		製材品出荷量		うち、人工乾燥材出荷量	
	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	
平. 11	17 952	96.4	1 461	100.5	18 165	96.2
12	17 094	95.2	1 462	100.1	17 231	94.9
13	15 179	88.8	1 377	94.2	15 486	89.9	1 547	...
14	14 060	92.6	1 353	98.3	14 402	93.0	1 790	115.7
15	13 903	98.9	1 401	103.5	13 929	96.7	1 938	108.3

単位 { 生産量・出荷量：千³m³
1工場当たり：³m³
比 率：%

(2) 合単板製造業

平成15年の合単板製造業の動向をみると、12月31日現在の合単板工場数は292工場で、前年に比べ4.6%減少した。

普通合板の製造量は302万4千㎡で、前年に比べ10.5%増加し、特殊合板の製造量は114万1千㎡で、前年に比べ8.0%減少した。

ア 合単板工場数及び従業者数

合単板工場数は292工場で、前年に比べ14工場（4.6%）減少した。

これを従業者数規模別にみると、50人未満の工場が72.6%を占めている。

従業者数は1万3,328人で前年に比べ4.4%減少し、1工場当たりの従業者数は45.6人で前年並みとなった。（第8表）

第8表 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数							従業者数		1工場 当たり 従業者数	
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数		対前年比
	実数	対前年比									
計	292	95.4	104	108	41	25	9	5	13 328	95.6	45.6
単板のみ	31	103.3	9	16	4	1	1	-	968	114.2	31.2
普通合板のみ	43	91.5	1	10	15	13	4	- 1) } 2)	6 004	91.9	1) } 105.3
普通合板と特殊合板	14	100.0	2	2	4	3	1				
特殊合板のみ	204	94.9	92	80	18	8	3	3	6 356	96.9	31.2

単位 { 工場数:工場
従業者数:人
比率:%

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量及び仕向量

単板製造用素材の入荷量は491万3千㎡で前年に比べ4.0%増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は36万㎡、外材は455万3千㎡で、前年に比べそれぞれ29.0%、2.4%増加した。

また、単板製造を目的として振り向けた素材の量（仕向量）は506万9千㎡で、前年に比べ4.8%増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は35万1千㎡、外材は471万8千㎡で、前年に比べそれぞれ23.6%、3.6%増加した。（第9表）

第9表 単板製造用素材入荷量及び仕向量

単位 { 入荷量・仕向量:千㎡³
比率:%

年次	入 荷 量			仕 向 量		
	計	国産材	外 材	計	国産材	外 材
平. 11	5 524	156	5 368	5 410	152	5 258
12	5 401	138	5 263	5 423	144	5 279
13	4 651	182	4 469	4 689	195	4 494
14	4 724	279	4 445	4 839	284	4 555
15	4 913	360	4 553	5 069	351	4 718
対前年比	104.0	129.0	102.4	104.8	123.6	103.6
構成比	100.0	7.3	92.7	100.0	6.9	93.1

ウ 普通合板製造量及び出荷量

普通合板製造量は302万4千 m^3 で、前年に比べ10.5%増加した。

これは、合板の輸入量の減少、新設住宅着工戸数の増加による構造用合板の需要が増加したこと等による。

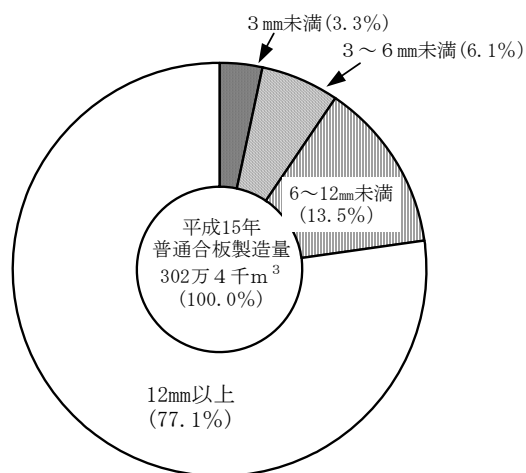
製造量を厚さ別にみると、「3mm未満」は前年に比べ4.4%減少したが、「3～6mm未満」、「6～12mm以上」及び「12mm以上」はそれぞれ6.6%、17.7%、10.4%増加した。

出荷量は296万9千 m^3 で、前年に比べ9.2%増加した。（第10表、図7）

第10表 普通合板製造量及び出荷量

区 分	単位 { 製造量・出荷量 : 千 m^3 比 率 : %		
	平. 15	14	対前年比
普通合板製造量	3 024	2 735	110.5
3 mm 未 満	99	103	95.6
3 ～ 6 mm	185	173	106.6
6 ～ 12 mm	409	347	117.7
12 mm 以 上	2 331	2 112	110.4
普通合板出荷量	2 969	2 718	109.2

図7 普通合板の厚さ別製造量割合



エ 特殊合板製造量及び出荷量

特殊合板製造量は114万1千 m^3 で、前年に比べ8.0%減少した。

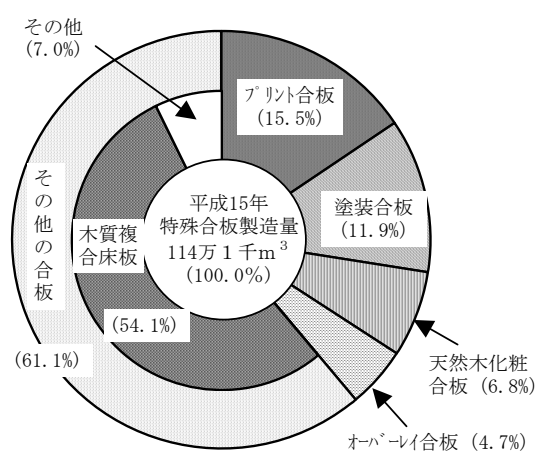
これを種類別にみると、「プリント合板」は前年に比べ13.1%増加し、「オーバーレイ合板」、「塗装合板」、「天然木化粧合板」及び「その他の合板」で前年に比べそれぞれ4.6%、27.9%、10.0%、7.4%減少した。

出荷量は115万6千 m^3 で、前年に比べ6.9%減少した。（第11表、図8）

第11表 特殊合板製造量及び出荷量

区 分	単位 { 製造量・出荷量 : 千 m^3 比 率 : %		
	平. 15	14	対前年比
特殊合板製造量	1 141	1 240	92.0
オーバーレイ合板	54	57	95.4
プリント合板	177	156	113.1
塗 装 合 板	136	189	72.1
天然木化粧合板	77	86	90.0
そ の 他 の 合 板	698	753	92.6
うち、木質複合床板	617	621	99.5
特殊合板出荷量	1 156	1 241	93.1

図8 特殊合板の種類別製造量割合



(3) 木材チップ製造業

平成15年の木材チップ製造業の動向をみると、12月31日現在の木材チップ工場数は2,201工場で、前年に比べ5.4%減少した。生産量及び出荷量は1,188万 m^3 、1,186万7千 m^3 で、前年に比べ、それぞれ7.0%、7.1%増加した。

ア 木材チップ工場数及び従業者数

木材チップ工場数は2,201工場で、前年に比べ126工場（5.4%）減少した。

これを経営形態別にみると、「兼営」は1,833工場と前年に比べ6.4%減少し、「兼営なし」は368工場で前年に比べ0.3%減少した。

木材チップ工場の従業者数は4,544人で前年に比べ0.4%減少した。これを従業者数規模別にみると、大部分が「4人以下」と小規模である。

また、1工場当たりの従業者数は2.1人で、前年に比べ0.1人増加した。（第12表）

第12表 経営形態別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数

工場類型	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たりの従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
計	2 201	94.6	1 984	154	48	15	4 544	99.6	2.1
兼 営	1 833	93.6	1 778	43	8	4
製材工場	1 820	93.6	1 766	43	8	3
合板工場	13	92.9	12	-	-	1
兼 営 な し	368	99.7	206	111	40	11

単位 { 工場数：工場
従業者数：人
比率：%

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は374万6千 m^3 で前年に比べ11万1千 m^3 （2.9%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は359万7千 m^3 、外材の入荷量は14万9千 m^3 で、前年に比べそれぞれ2.0%、19.9%減少した。（第13表）

第13表 木材チップ用素材入荷量

実数	単位 { 国産材・外材：千 m^3 比率：%		
	計	国産材	外材
平.11	4 407	4 198	209
12	4 336	4 098	238
13	4 062	3 826	236
14	3 857	3 671	186
15	3 746	3 597	149
対前年比	97.1	98.0	80.1
構成比	100.0	96.0	4.0

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

木材チップ生産量は1,188万 m^3 で、前年に比べ7.0%増加した。

これを原材料の入手区分別にみると、「素材(原木)」は378万6千 m^3 で前年に比べ4万4千 m^3 （1.1%）減少し、「工場残材」は486万1千 m^3 、「林地残材」は14万3千 m^3 、「解体材・廃材」は309万 m^3 で、前年に比べそれぞれ2.6%、50.5%、26.8%増加した。

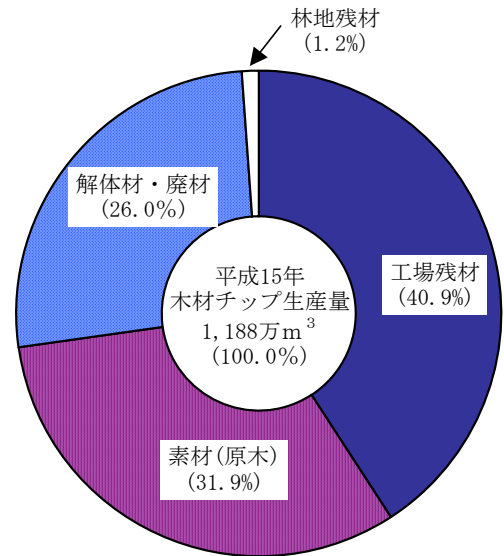
また、樹種別にみると、「針葉樹」は869万4千 m^3 で、前年に比べ9.9%増加し、「広葉樹」は318万6千 m^3 で、前年に比べ0.2%減少した。

出荷量は1,186万7千 m^3 で、前年に比べ7.1%増加した。（第14表、図9）

第14表 木材チップの生産量及び出荷量

区 分	単位 { 生産量・出荷量：千m ³ 比 率：%		
	平. 15	14	対前年比
木材チップ生産量	11 880	11 099	107.0
(原材料別)			
素材(原木)	3 786	3 830	98.9
工場残材	4 861	4 737	102.6
林地残材	143	95	150.5
解体材・廃材	3 090	2 437	126.8
(樹種別)			
針葉樹	8 694	7 908	109.9
広葉樹	3 186	3 191	99.8
木材チップ出荷量	11 867	11 081	107.1

図9 木材チップにおける原材料別生産量割合



3 木材価格の動向

平成15年の木材価格の動向をみると、年の前半は低下傾向、後半は上昇傾向となった。これは、住宅ローン減税の駆け込み需要による荷動きの影響を受けたこと等による。

(1) 素材価格（丸太価格）（第15表、図10）

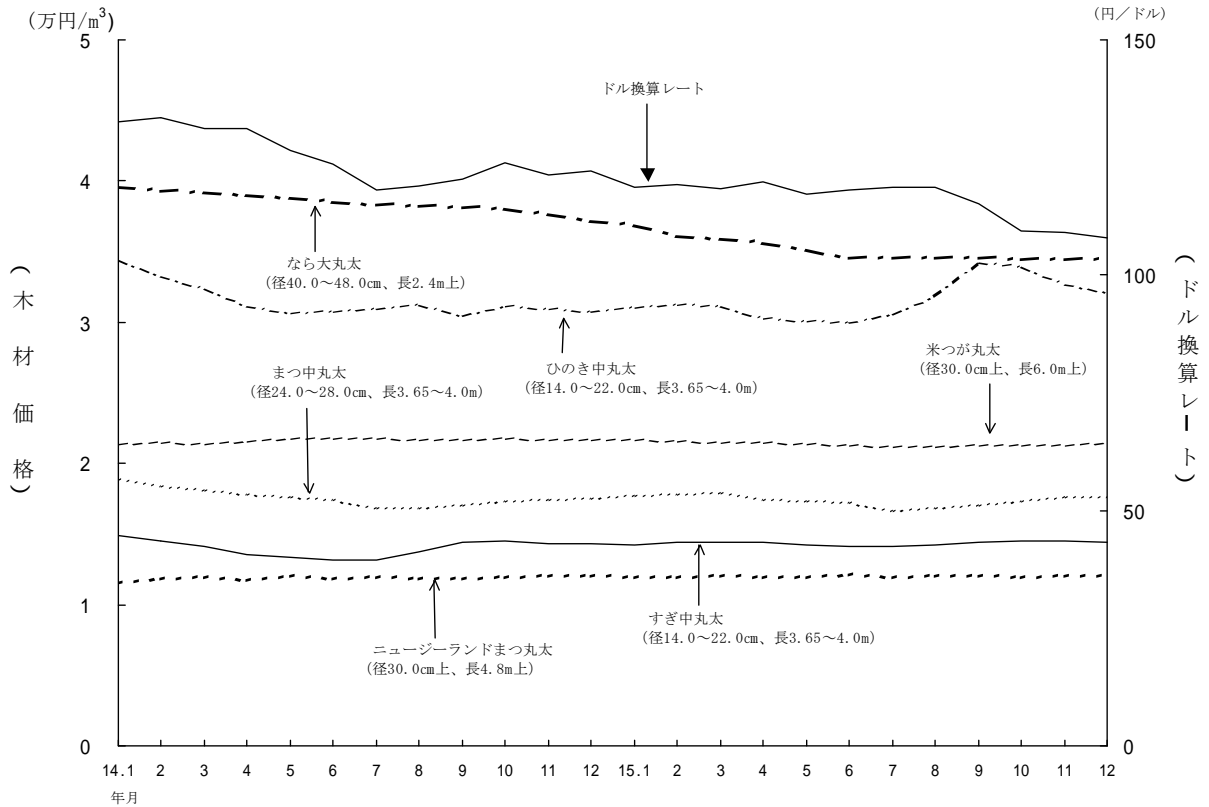
- ア 「まつ中丸太」（径24.0～28.0cm、長3.65～4.0m）の価格は年の中盤は低下傾向で推移し、後半は持ち直したものの、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万7,400円で前年に比べ200円低下した。
- イ 「すぎ中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）の価格は年間を通して安定した価格で推移しており、年平均では1万4,300円で前年に比べ300円上昇した。
- ウ 「ひのき中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）の価格は年の前半は低下傾向で推移したものの、年平均では3万1,600円で前年に比べ100円上昇した。
- エ 「なら大丸太」（径40.0～48.0cm、長2.4m上）の価格は年の前半は低下傾向で推移しており、年平均では3万5,100円で前年に比べ3,400円低下した。
- オ 「米つが丸太」（径30.0cm上、長6.0m上）の価格は低下傾向で推移し、後半から上昇傾向になったものの、年平均では2万1,400円で前年に比べ300円低下した。
- カ 「ニュージーランドまつ丸太」（径30.0cm上、長4.8m上）の価格は年間を通して安定した価格で推移しており、年平均では1万2,000円で前年に比べ200円上昇した。

第15表 素材価格

単位：1㎡当たり円

年次	まつ	すぎ	ひのき	なら	米つが	ニュージーランド ^o
	中丸太	中丸太	中丸太	大丸太	丸太	まつ丸太
	径 24.0～28.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 40.0～48.0 cm 長 2.4 m 上	径 30.0 cm 上 長 6.0 m 上	径 30.0 cm 上 長 4.8 m 上
込み	込み	込み	込み	No.3	込み	
平均価格						
平. 12	19 900	17 200	40 200	40 200	22 300	11 600
13	19 500	15 700	37 800	39 600	21 900	11 800
14	17 600	14 000	31 500	38 500	21 700	11 800
15	17 400	14 300	31 600	35 100	21 400	12 000
対前年差						
平. 12	900	1 600	2 300	2 700	1 300	700
13	400	1 500	2 400	600	400	200
14	1 900	1 700	6 300	1 100	200	0
15	200	300	100	3 400	300	200

図10 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格 (第16表、図11)

ア 製材品

- (ア) 「すぎ正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) の価格は年の前半は低下傾向で推移したが、後半は上昇傾向に転じ、年平均では4万2,400円で前年に比べ400円上昇した。
- (イ) 「ひのき正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) の価格は年の前半は低下傾向で推移したが、後半は上昇傾向に転じ、年平均では6万9,600円で前年に比べ500円上昇した。
- (ウ) 「米つが正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) の価格は上昇傾向で推移しており、年平均では5万600円で前年に比べ1,500円上昇した。
- (エ) 「北洋えぞまつ板」 (径1.2~1.5cm、幅15.0cm、長3.65~4.0m) の価格は年間を通して安定した価格で推移し、年平均では4万6,000円で前年に比べ500円低下した。

イ 合板

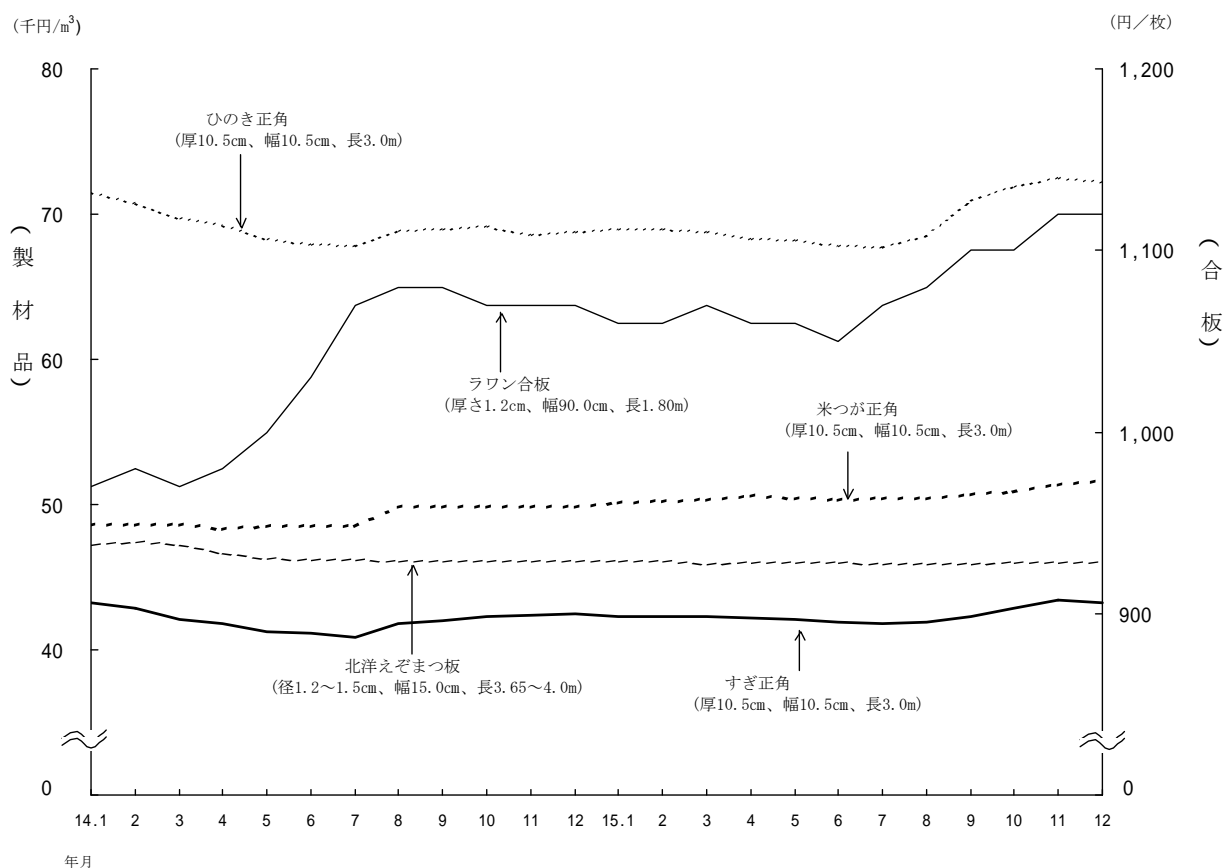
「ラワン合板」 (厚1.2cm、幅90.0cm、長1.80m) の価格は年の前半は低下傾向で推移したが、後半は上昇傾向に転じ、年平均では1,080円で前年に比べ50円上昇した。

第16表 木材製品卸売価格

単位：1m³当たり円

年次	すぎ正角	ひのき正角	米つが正角	北洋えぞまつ板	ラワン合板 (1枚当たり)
	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	径 1.2~1.5 cm 幅 15.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 1.2 cm 幅 90.0 cm 長 1.80 m
	2 級	2 級	2 級	1 級	コンクリート型枠
平均価格					
平. 12	47 300	75 700	50 100	46 800	970
13	44 700	73 000	49 000	47 300	970
14	42 000	69 100	49 100	46 500	1 030
15	42 400	69 600	50 600	46 000	1 080
対前年差					
平. 12	1 000	100	500	1 500	110
13	2 600	2 700	1 100	500	0
14	2 700	3 900	100	800	60
15	400	500	1 500	500	50

図11 木材製品卸売価格の推移



(3) 木材チップ価格 (第17表、図12)

木材チップの価格は、紙・板紙の需要減少の影響等により低下傾向で推移しており、針葉樹で5,200円、広葉樹で8,600円で前年に比べそれぞれ100円、300円低下した。

第17表 木材チップ価格

単位：円

年次	針葉樹	広葉樹
	パルプ向け	パルプ向け
平均価格		
平. 12	...	9 500
13	...	9 200
14	5 300	8 900
15	5 200	8 600
対前年差		
平. 12	...	400
13	...	300
14	...	300
15	100	300

図12 木材チップ価格の推移

